

No. 379

H31年2月1日

— 発行 —

〒869-1217

熊本県菊池郡

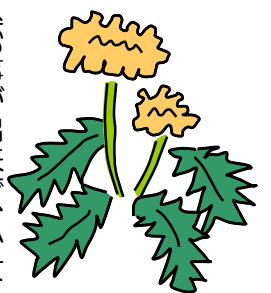
大津町森 54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



## 守りきれなかったいのち

施設長 木下 昭二

毎日のように痛ましい事件や事故の報道がテレビから流れてきます。今とは（メディア等の発達状況が）全く違っていたのかも知れませんが、私達の幼少期の数十年前は「今ほど、悲惨な事件や事故」はなかった（少なかった）ようにも感じるのですが…

つい数日前の報道でも千葉県野田市で起こった10歳の少女が自宅で父親から暴行を受けて放置され、亡くなってしまうという第一報を聞いた時は、自分の耳を疑ってしまうような内容でした。しかも、その後の事実関係が明らかになる中で、その少女は学校からのアンケートに答える形で「学校の先生にSOSを発信していた」事も解って来ました。しかし、勇気を振り絞って発信したその声なき声は、大人達によってかき消され、踏みじられてしまい、

幼きいのちを守ってあげる事が出来ないという最悪の結末となっていました。

小学校が市の教育委員会から依頼を受けて実施したアンケートには、「ひみつをまもりますので、しようじきにこたえてください」「なまえをかきたくないばあいは、かかなくてもかまいません」と記入されていたが、少女はしっかりと自分の名前を書いており、具体的に、「お父さんにほう力を受けています。夜中に起こされたり、起きているときにけられたり、たたかれたりされています。先生、どうにかできませんか」と訴えていた事からも、「この状況を自分で何とかしなければ…」という必死さと共に切実な悲痛の叫びが伝わってきます。アンケートやその後の本人への聞き取りによって、父親による長期に亘って虐待の兆候が確認されていたにもかかわらず、学校も行政も

地域も踏み込む事が出来ず、少女は「誰を信じたら良いのか解らず」途方に暮れ、失望感に苛まれていた事でしょう。

一方で、市の教育委員会の、暴力を訴えたアンケートの「コピー」や恫喝に負けて「渡してしまっただ対応は、少女が父親に受けたところ・からの痛みに比して考えると、如何ばかりかと思ってしまう。その対応に対して文部科学省は、（保護者から強いプレッシャーがあったとしても）「児童相談所や警察、法律の専門家と連携していれば、コピーを渡すという判断にはならなかったはずだ。被害を被るのは子供であり、子供を第一に考えるべきであった」といった事や、「アンケートの中身を教えた事が、事件の遠因になった」という思いを強く持っている」との見解を示しています。

業種・業態は違えども現場で働く人達が一番大変である事は、重々承知しているつもりです。文科省から出された見解だけで言い尽くせるものでもなく、矢面に立って窓口で対応された方は、本当に父親に恐怖を感じておられた事でしょう。しかし、小学校の先生、教育委員会、児童相談所、警察といった複数の専門家の方々が関わっていながら、「最悪の結末」に至ってしまった事については、きちんとした調査と報告・検証が必要のように思います。

同様の事件・事故は時間の経過と共に風化し、しばらくすると「またか…」といった形となって現れます。虐待（を疑われる）↓引越す↓情報が（きちんと）伝わらない↓虐待が潜在化・凶悪化する↓（表面化した時には）重篤化した状態です。負の連鎖状態を周囲が見張りの、189番（いち はやく）の児童相談所全国共通ダイヤルに通報して宝である子供達を守り、育みましょう。

そして「連携不足」を言い訳にするのも、もうやめましょう。



## 1 班：「元気が一番！」

新しい年を迎え、自宅に帰省された方は自宅で過ごした様子を嬉しそうに話して下さいます。また、三気の里で正月を迎えられた方もこたつに入ってゆっくりされたり、お宮参りに行って甘酒を美味しく飲まれたりと、それぞれ充実した新年を迎えることができたようです。正月休みも終わり皆さん作業の時間になると休みモードから、作業モードへ。作業を黙々と頑張る皆さんを見て私も「頑張らなくちゃ」と思いました。また、風邪やインフルエンザが流行していますが、1 班の利用者の方は毎日元気に作業に取り組まれています。作業を頑張って月に 1 回の給料外出に行けることを楽しみにされているようです。自分が好きなお菓子や飲み物を買って美味しく食べる姿を見て私たちとても微笑ましく思います。これも健康に過ごせているからこそだと思います。今年一年利用者の皆さん、スタッフ共々元気に楽しく過ごせる年にしていきます。

支援員 西本 綾子



## 2 班：「年越しのスケジュール」

年末年始、皆さんは何をして過ごされましたか？「今日は〇〇をしました」と言える毎日だったでしょうか。作業が休みとなる 12 月 29 日から 1 月 3 日の間、「ゆっくり過ごしましょう」と言われると嬉しく感じそうですが、活動がないと何をしたいのかわからないと困る方もいらっしゃると思います。M さんはそんな方の一人。そこで、この冬は「1 日 1 イベント」のスケジュールを立てて、「今日は〇〇の日」「明日は〇〇の日」と確認し、実施できるようにしました。内容は「29 日はジュース購入」「30 日は散歩」「大晦日は三気温泉」「元旦はおせち料理」「2 日は初詣」「3 日は買い物」と個別のものからグループでやること、施設全体でのイベントも含め、とにかく毎日確認、毎日実行しました。M さんはスケジュール表を毎日確認しながら、次の日を楽しみに待ち、穏やかな笑顔で過ごされました。落ち着いた休日を経て、2019 年、2 班は元気にスタートしました!!

課長 平川 聖子



## 3 班：「透視能力？」

私が担当している利用者の S さん、作業ではパッキンはめやトマトパックのシール貼り、簡単なものでは野菜の袋詰めが出来ます。また、S さんは紙とハサミを渡すと「1~10」「A~Z」の文字をフリーハンドで切り取り、形、大きさを均等に切り分けることが出来ます。正月休みから帰園され、私と会った時のことでした。「外出を計画しようかな？」と S さんを見て思っていたら「毛井さん、外出、外出!!!」と言ってきて、ビックリでした。心で思っていたことが S さんは分かるのではないかと感じました。しばらく日が経ち、S さんと会うと「毛井さん、外出、外出!!!〇〇日外出」と言ってきて、外出の予定を S さんに伝えようと思った矢先のことでした。(日にちがおいしい・・・でもなんでその近辺の日になっちゃったんだろう・・・)

その後、S さんに紙に書いて外出の説明をしました。S さんは上機嫌になり笑顔でした。驚かされる事ばかりの年初めでしたが、S さんの魅力がまた増したやり取りでした。

それにしても・・・S さんはすごい！これからも利用者の皆さんの「すごい!!」を色々と発見できる 1 年にしたいと思います。

支援員 毛井 寛康



#### 4 班：「笑う門には福来る」

年が明けた朝、起きてきた Y さんに「あけまして……？」と耳元で聞くと、「トゥーユー」という答えが返ってきました。笑 「おめでとう」という言葉を期待していた私は、一瞬、ん…？となりながらも、その意味がすぐに分かり近くにいたスタッフと目を合わせてその微笑ましい姿に笑顔がこぼれました。「Happyバースデートゥーユー」と混じってしまった様です。その後、改めて「あけましておめでとうございます」と挨拶をすると、「おめでとうございます」と挨拶が返ってきました。普段から、挨拶やお礼をする時は、深々と頭を下げて礼儀の正しい Y さんです。よく喋り、4 班のみんなの世話役的な存在でもあります。

4 班は 11 名と少人数ではありますが、それぞれにとっても個性や協調性がありどの班よりも存在感があります。また、利用者さん同士が助け合う心の優しい班です。今年も、健康第一を掲げ、スタッフと利用者さんが同じことで笑い合える、幸せな温かい班でありたいと願っています。

支援員 池田 彩織



#### 5 班：「初詣」

年が明け「初詣にいきましょう！」と声を掛けるといつもよりも早く支度を行い、嬉しそうにバスに乗り込む様子が見られました。神社に着くとお賽銭を入れ、それぞれ手を合わせてお願い事をされていました。私の担当の M さんを見ると、数秒間じっくりと手を合わせてお願い事をしていました。帰りに「何をお願いしましたか？」と尋ねると「健康に過ごせることと、作業を頑張ることです」と言われていました。M さんのその顔はとても生き活きとしていて活気に満ち溢れていました。M さんの表情を見て、私も M さんを見習い頑張ろう！という気持ちになりました。

帰りはホクホクの焼芋を食べに焼芋専門店に行きました。とても甘く「美味しい」と言って食べられていました。”芋を食べて胃も元気になった”ので今年一年元気いっぱい笑顔いっぱいの 5 班で頑張っていきましょう。

支援員 原田 みさき



#### 環境美化係「安心、安全な生活の提供」

三気の里の利用者の中には、埃や紙、糸クズ、釘やクリップなどの金属類を口にすることがあります。また、施設の備品や壁などを激しく壊す方もいます。皆、悪意があつての行動ではありません。無造作に落ちているゴミ、壊れかけの棚や剥がれかけのクロスなど、必ず何らかの原因や要因があり、結果として危険を伴う行動を起こさせてしまっているだけです。環境美化係は、このような命を危惧する行動を、未然に防ぐという目的があります。毎月の会議では、係員各々が、施設内外における見回りを行い、危険箇所を発見して改善に努めています。昨年、飛んできた蜂に驚き、転倒するということがありました。今年は、蜂が巣をつくらないう、事前に予想される場所に駆除剤を散布しました。求められることは、安心、安全な生活の提供であり、内容は多岐に渡ります。今後も利用者の特性と環境を照らし合わせながら、目的に向かって、事前の対応に努めていきます。

主任 本田 誠

【療育雑記】

「重責く当たり前前の保証く」

主任 石丸 直美

「Tは?」「ごはん!」「Tは?」「ちよっと!」起床を済ませた利用者が集まるプレイルーム内で響く声。この声に、この言葉に、その場にいるスタッフは皆、自然と笑みを浮かべうれしさに包まれていました。

朝食の準備が整い、順に食事に促される他の利用者を見て、自分の名前を口にして、ごはんはまだかとスタッフに訴えるTさん。Tさんは1年半程前に長く受診していた病院から現在の病院に転院し、投薬の調整を始めた。その頃のTさんは、非常に強い全身の強張りであり、何かをしようとするほどに強い緊張で全身が突っ張るため日常動作が出来なくなっていました。車いすに座っていることも非常に困難で、1分とない間隔で身体を突っ張らせ滑り落ちる、

突っ張りの強さから頑丈に作られている車いすの骨組みが曲がる、折れるの繰り返しでした。全身の緊張は強いが、薬の影響でよだれが流れ落ちるといった姿でした。

そのような状態になった経緯には、難治性てんかん診断を受け、幼少期から受診していたのですが、4年程前に明確なてんかん波が見られないため、Tさんの症状は精神性症状であるという見解で、幼少期から持ち合わせていた粗暴性や興奮という症状をメインに投薬治療が3年に渡り行われてきたことがあります。

てんかん発作と思える症状を日々目にする中で、「本当にてんかん治療は必要ではないのか?」という思いは強かったのですが、脳波検査でてんかん波が見られないという現実。そして、てんかん症状と考えるものは、てんかんに似ているがそうではないという根拠を、ドクターから説明を受ける中で「私達

の感じるものは違っているのかな…」と思うしかありませんでした。それに加え、もともと粗暴性が強い方でしたので支援に困ることも多く、粗暴性や興奮をメインとした投薬治療への変更、それに加えて50年に亘りてんかん発作と、精神薬服用による脳の萎縮で、全身の強張りは仕方がないものだと思うなればいけないという気にもなっていました。そのような思いや状況の中で、明確な発作波は見られないものの、てんかん薬治療をメインに調整を繰り返してきました。

てんかん発作だと診断するに至る明確な検査結果は得られないために、支援者の感覚で間違った治療をうけさせているのではないかと、いう強い不安と、現状を受け入れられない思いを持ちながらTさんと共にこの1年を過ごしてきました。すべてが一気に好転したわけではなく、症状の改善には時間がかかり、途中強い突っ張りが原

因と思われる怪我もありました。そうしてこの半年程徐々にポツリ、ポツリと言葉を口にするようになり、笑うようになり、本人の意図する動きが出来るようになり、現在に至っています。納得いかなければ怒り、気分が良ければスタッフと一緒に歌います。作業の準備に手間取ると、「ちよっと!早く!」と催促をします。以前は当たり前であったことが、出来ることにTさんの周囲は皆喜び日常になりました。

症状、状態を上手く表現できないTさんに代わり、ドクターや関わる人達に思いや状態を明確な判断基準となるよう伝えることの難しさ、それが的確に出来なければTさんの人生を思いもよらず苦しいものにしてしまう怖さを改めて感じたケースです。私たちはTさんの4年間を取り戻す思いで、出来ることを見出していきます。

## 【家族便り】

「三気の里への思い」

渡邊 京子

三気の里、創立三十周年、おめでとうございます。私の子供は、二年後の入所で二十八年になるところです。

当時、私は子供が施設にお世話になるのはまだまだ先の事と思っておりましたが、それは突然にやって参りました。

養護学校高等部一年が終わり、春休みの時でした。中学部の頃より、エスカレーターを迎えておりました。自分の思い通りにいかない腕力でやって来るのです。

家中で気を遣い、今日の機嫌はどうだろうか？と子供の様子ばかりを気にする日々が続きました。言葉一つを取っても勘違いしない様に言葉を選び、テレビの画面も暴力や子供の泣き声のあるシーンは避けるという風に気に障らぬ様に努めておりました。

気をつけて、一所懸命努力するのですが、私の思いは届かず、朝も、昼も、夜もやってくるパニックに、どうにもならないことの悲しさ。自分の子供なのに、どうしてやることも出来ない悔しさ。誰に頼る事も出来ず、涙を流さない日はありませんでした。

夜になると不安と心細さで胸は張り裂けそうになりました。身も心も疲れ果てて、死をも考える様になりました。遺言は誰に書こうかとか、私が死んだら上の娘はどうなるだろうかとか、考えれば考える程、涙は止まらず本当に、辛く悲しい日々を送りました。そんな苦しい時に救って頂いたのが、三気の里の創設者、故田中 稔先生でした。

田中先生の「どうぞ」の一言に救われました。この言葉がなかったら、今の我が家はなかつたかも知れません。子供も突然の親との別れに、きつと戸惑ったことでしょう。でも、今では良い結果になりました。スタッフの皆様の御指

導の下、入所以来徐々にパニックも少なくなり、今は、「あれは何だったのだろうか」と思える程になりました。毎週末の帰宅をお互いに楽しみにし、月に1度は外食も出来る様になり、夢の様な日々を送っています。私も離れて過ごしている分、子供がいとおしくてなりません。

人間生きていけばいい事もあるものだと思わせて頂いたのが三気の里です。私にとりましても、子供にとりましても掛替えの無い三気の里。いつまでも変わりなく続いていける事を願っておりますと共に、益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

(平成29年12月発行)

三気の会30周年記念誌より抜粋

## 【地域活動支援センター アンパ】

支援員 黒澤加代子

1月7日、利用者の方達と一緒に散歩(初歩き)をし、アンパ近くの玉岡神社を参



拝しました。今年は平成最後の年となり、新たな年号が始まります。アンパも作業所『夢咲工房アンパ』から『地域活動支援センター アンパ』としての活動に変わりました。10年が経ち節目の年となりました。地域の方達やたくさんの方達に支えていただき、今があることに感謝し、利用者の方達とスタッフの健康を祈ると共に、アンパがさらに発展していけるようこれからも見守っていただきたいと手を合わせました。

# 2月 行事予定

- 三気の里  
 3日(日) 節分  
 5日(火) 岡田 Dr.来診  
 9日(土) 家族会・スタッフ会議  
 利用者工賃支給日  
 11日(月) 家族懇親会  
 12日(火) 意見・苦情報告会  
 21日(木) 3班レクリエーション  
 22日(金) 駅弁の日  
 23日(土) 帰宅バス・療育会議  
 24日(日) 三気の里講演会  
 28日(木) 2班レクリエーション

地域活動支援センター アンパ  
 毎週木曜地域販売日  
 【7、14、21、28日】  
 ※インフルエンザ流行に伴い、臨時休業の場合あり。電話で確認のうえ、お立ち寄りください。



## GH はじめ

新しい年が始まり、最初のティータイムは鏡開きの日。利用者さんと一緒に簡単ぜんざい作りを行いました。粒あんを焦がさないように丁寧によく混ぜたり、お餅は柔らかく茹でたり…あっという間に完成～!! 美味しく出来上がりました。「頂きます～♪」一口頬張るとみんな笑顔になり、今年一年の無病息災を祈って…完食!! 良い年になりますように…!!

世話人 金丸 綾子



## そば打ち実演

LEOC さんによるそば打ちの実演と体験を行いました。出来上がったそばは、昼食に美味しく頂きました!

【生け花】

ボランティア  
 あらなとてんてん

西村 栄子 様

竹下 英毅 様  
 【物品寄付】  
 米村 秋江 様  
 林 千沙子 様

※順不同

中村 秀隆 様

寄付ありがとうございました

※順不同

清田 勝実 様  
 井上 律子 様  
 ボワ 様

金森 保 様  
 松永 広美 様

後援会ありがとうございました

